

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：大和市立緑野保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：園長 吉田真弓	定員（利用人数）：100名（90名）
所在地：〒242-0008 大和市中心林間西4-27-12	
TEL：046-274-4769	ホームページ： https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/soshik/hoiku/hoikuen/midorino.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1972年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：大和市	
職員数	常勤職員：20名 非常勤職員：17名
専門職員	園長：1名 副園長：1名
	保育士：17名 看護師：1名
	会計年度任用職員保育士：10名 会計年度任用職員子育て支援員：1名
	会計年度任用職員用務員：2名 派遣看護師：2名
	派遣保育士：2名
施設・設備の概要	保育室：6室 トイレ：1ヶ所
	調理室：1室 事務室：1室
	園庭：あり

③ 理念・基本方針

【保育理念】

子どもの心とからだ（生きる力）の基礎を育む

【基本方針】

- 健康、安全な環境の中で、子どもの豊かな感性や健やかな心とからだを育つように愛情と誠意を持った保育をします。
- 一人一人の成長の芽を大切にし、遊ぶ楽しさや、友達と一緒にいる喜びなどを感じられる保育を大切にします。
- 子どもと保護者のおかれた状況や意向を受け止めながら、保護者と手を取り合い、子育ての喜びや楽しさを共感し合える保育を目指します。
- 地域育児センターとして関係機関との連携を図り、地域の子育てを支援します。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

当園は小田急・東急田園都市線の中央林間駅より徒歩8分という利便性の良い所に位置しています。周囲には公園や緑も多く、四季の移り変わりを感じられる環境の中にあります。平屋建ての良さを生かし、ゆったりとした雰囲気の中で同年齢の友達と元気に遊び、さまざまな体験をしながら、心も体も健やかに育っていくことを大切にしています。

<主体性を育む保育>

・子どもの願いや思い、発想を保育士が丁寧に汲み取り、子ども自らがやりたいことを見つけ、遊びが自然と活動に反映され、体験をとおした学びに繋がる保育の実践に取り組んでいます。また、『自分を受け止めてもらっている』という安心のもと自信を持って生活し、自分自身を大切だと思える自己肯定感を育むことを大切にしています。

<異年齢交流>

・クラス保育にこだわらず日常的に異年齢交流を行うことを通じ、様々な年齢の関わり合いを見守りながら、思いやりの気持ちや憧れを持って挑戦する意欲など、個々の育ちに繋がっていくことを大切にしています。

<地域子育て支援>

・地域における子育て支援の拠点として地域育児センターの機能を持ち、子育て世帯の孤立を防ぐため、各種講座の開催や育児相談、情報提供などを行い、開かれた保育園となるよう取り組んでいます。

<地域の保育園との連携>

・公立保育園の保育士が定期的に民間園を訪問することで顔の見える関係を築きながら、身近な相談窓口となるなど、大和市内全体の保育の質向上に向けた取り組みを行っています。

<特別支援保育>

・公立保育園では、障がいのある子どもや医療的ケア児を積極的に受け入れ、多様性を尊重した保育の実践に取り組んでいます。また、特別支援に特化した研修会を主催し、民間園と勉強会を行うなどの取り組みを行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和6年7月1日（契約日） ～ 令和7年3月27日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（令和1年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性を育む保育の実践

園では従来の大人主導の運動会や劇などの発表会ではなく、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を大切にしながら、子どもの主体性を育む保育の実践に取り組んでいます。クラスごとに実施している「みどりのフェスタ」では、子どもたちが日常的に楽しんでいる遊びの中から自分たちがやりたいことを見つけ、体験を通して学びにつながるよう支援しています。海賊ごっこから発展した、ゲームやバーベキューなどの遊びを保護者と楽しみたいという思いで皆で考えてコーナーを作り、保護者も参加することで楽しい経験に繋がっています。子どもは「自分を受け止めてもらっている」という安心のもと自信にも繋がっています。

2)地域の子育て支援への取組

公立保育園として地域子育て支援事業に取り組んで地域の子育てを積極的に支援しています。保育園の専門性を生かし、地域で育児に関する悩みを抱えている保護者等の相談に応じています。子育て家庭交流事業として園庭を開放したり、地域育児講座を

開催し、いろいろな遊びを提供して親子で楽しく過ごしながら地域の子育てを応援しています。社会福祉協議会主催のサマースクール等を通じて世代間交流にも取り組んでいます。地域の子育て向上のために子育てサロン・サークルに職員を派遣し支援しています。一時的に家庭での保育が困難となる児童を預かる一時預かり事業も実施しています。民間保育園との交流も行い、身近な保育の相談にも対応しています。

3)特別支援保育の取組

公立保育園として、障害のある子ども、医療的ケアを必要とする子どもについて積極的に受け入れ、多様性を尊重した保育の実践に取り組んでいます。また、特別支援に特化した研修会を主催し、民間園と勉強会を行う等の取り組みを行っています。

4)ICT化により事務業務の効率化の取組

来年度より、保護者とのコミュニケーションツールを新しく導入する計画であり、連絡帳のペーパーレス化やクラスの様子などの写真を漸次掲載していくことを検討しています。事務負担の軽減化につながるICT化を推進し、保育の質の向上に充てる時間を増やしていくことが望まれます。

5)主体性を育む保育へ取り組むための人材の育成

子どもの主体性を尊重した保育では、一人一人の個性を大切に、子どもの願いを受け止め、寄り添っていくことが従来以上に求められています。主体性を育む保育を推進していくためにリーダーシップを発揮できるミドルリーダーなどの人材育成に注力していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、第三者評価を受けるにあたり、事前の職員説明会にて「第三者評価は、園の良いところ探しをするためのもの」と話していただき、職員一同、前向きな姿勢でこれまでの保育を振り返るとともに、皆で良い園にしていきたいという思いで、準備を進めることができました。全職員参画のもとで全項目を振り返ることが望ましいとのご助言のもと、経験年数、年齢、職種を超えたチームを作り、一項目ずつそれぞれの思いを伝え合う作業を行ってきました。今年度は、園内の同僚性を高めることを目標にしていた中、チームごとに「相手の思いを受け止め、それぞれの考えを尊重する」ことを大切にしながら、丁寧な語り合いを積み重ねることができ、園内のチーム力向上に繋がる良い機会を与えていただきました。

保育園として、マネジメントのほか、保育理念等の保護者への周知が不足している等、まだまだ課題はありますが、これまで積み重ねてきた子ども主体の保育の取組について、外部の方から評価していただくことができ、大きな自信に繋がりました。今後も現状維持に留まることなく、保護者や地域の皆様との連携を大切に、子どもの願いがより多く実現できるような保育実践に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり